

イセエビ漁業資源に関する研究—II

イセエビ漁況の年変動について

藤本 武

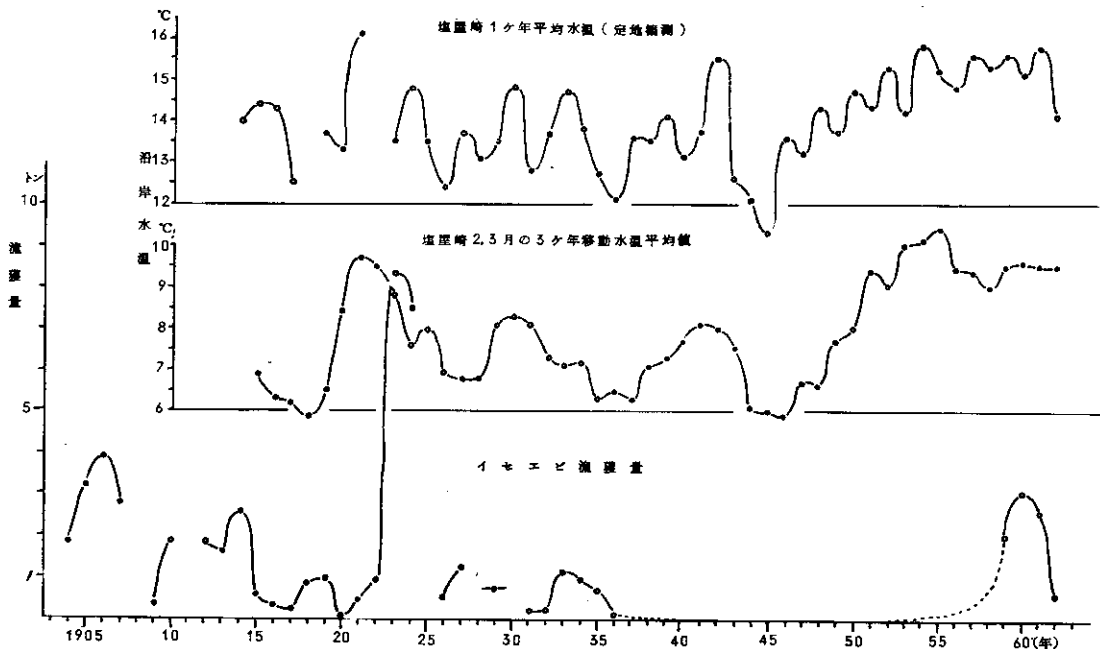
I 諸 言

茨城県沿岸で漁獲されるイセエビの量は他県に較べて少く、漁況の年変動については久保¹⁾の指摘したとおり産業的に分布も北限であり、年変動の大きいことが報告された。永年の沿岸水温と漁獲量については著者^{2,3)}の報告したとおりであるが、近年の漁況の年・月別の変動について、比較的この漁業に依存する川尻地区の漁獲量を解析してとりまとめたので報告する。

II 調査結果並びに考察

1. 永年漁況について

イセエビの永年の漁獲量と沿岸水温との関連性については前報²⁾で報告したとおり、茨城県沿岸の海域で好漁年は1~4年前位の海況(特に沿岸水温)に多く支配され、第1図のとおり近年も同様の傾向を示



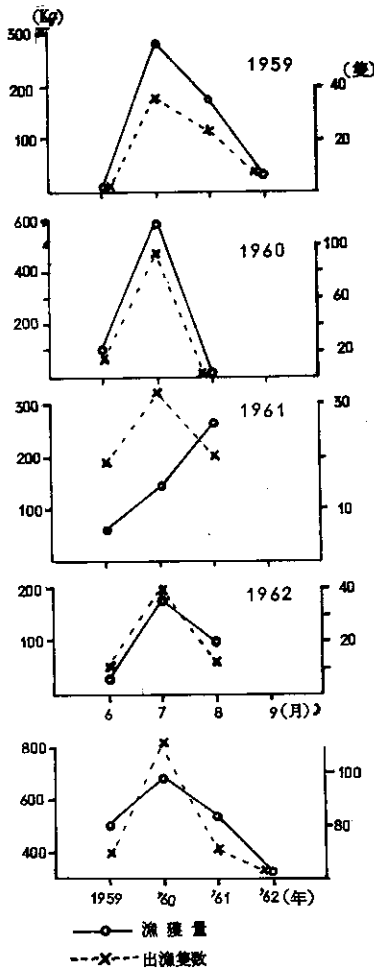
第1図 永年の沿岸水温とイセエビ漁獲量

している。永年の漁況を塩屋崎2~3月の3ヶ年移動平均水温第1図でみると、1920~23, '29~'31, '52~'62の沿岸水温と1923~'24, '33~'35, '59~'62の漁獲量はともに関連性がみられる。塩屋崎の2, 3月の3ヶ年移動平均水温が8~9°C以上の年が続き又、その後に親潮の卓越がなければ好漁がみられ、それも他県と比較するほどの量ではない。なお、近年1ヶ年間の平均水温の状況を見ると52頃から14~15°C以上の年が続き好漁となつてゐることが判る。

2. 漁獲量の経年変化について

年	6月		7月		8月		9月		合計	
	延漁数(隻)	漁獲量(Kg)	延漁数(隻)	漁獲量(Kg)	延漁数(隻)	漁獲量(Kg)	延漁数(隻)	漁獲量(Kg)	延漁数(隻)	漁獲量(Kg)
1959	1	6.0	36	282.3	24	174.7	9	31.5	70	494.5
'60	14	97.6	95	573.6	3	14.5	—	—	112	685.7
'61	19	57.1	32	146.9	20	266.6	—	—	71	537.4
'62	11	27.5	39	182.2	13	102.1	—	—	63	311.8

第1表 年、月別努力数及び漁獲量 (Kg) (川尻水揚量)



第2図 年・月別漁獲量 (川尻)

川尻地区における1959~'61の出漁隻数及び漁獲量については前報³⁾で報告したが、'62の資料を追加して年・月別に解析すると第1表、第2図のとおりである。年別にみると'60が出漁隻数、漁獲量ともによく、685.7kg, '61は537.4kg, '59は494.5kg, '62は311.8kgの順となり、月別の漁獲量を見ると7月が出漁隻数、漁獲量ともによく、次に8, 6, 9月の順となり、9月の出漁は'59だけであり普通、漁期は6月下旬から8月上旬の約2ヶ月間となり、イセエビの産卵時期に入る8月中~下旬以前に終漁となつている。

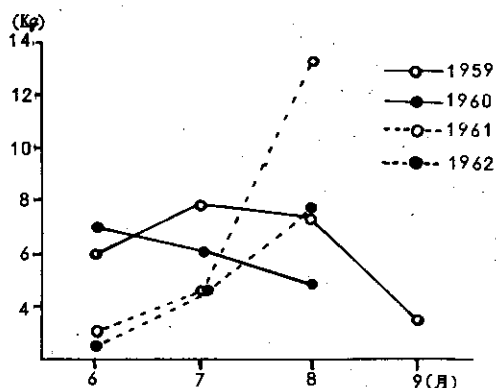
3. 単位当りの平均漁獲量について

イセエビの単位当りの平均漁獲量を年・月別に見ると第2表、第3図のとおりである。その傾向を年別にみると'59, '60は6月には'60が'59よりもやや多いが、7, 8月と近似した傾向がみられる。'61と'62は'59, '60の6, 7月に比較して同じ傾向を示しているが、約 $\frac{1}{2}$ で少く8月には急激な増加がみられ、'59, '60とは違つた傾向を示していることが目立つている。

'59は6月に6kgで7月は7.8kgとなり8月に7.3kg, 9月は3.5kgと減少している。'60には6月に7kgで7月には6kg, 8月には4.8kgと減少し、

年	月	6 (kg)	7 (kg)	8 (kg)	9 (kg)	平均 (kg)
1959		6.0	7.8	7.3	3.5	7.0
'60		7.0	6.0	4.9	—	6.1
'61		3.0	4.6	13.3	—	7.6
'62		2.5	4.7	7.9	—	5.0

第2表. 年・月別, 単位当り平均漁獲量 (kg)



第3図 年・月別の単位当り平均漁獲量 (川尻)

'60が漁期中頃から下向きであり、それに比較して'61, '62は漁期中頃から終漁期の8月にかけて急激に増加することが認められ、2~3倍の増加となつている。これは他の近接場所からの添加量が増加していることと思われる。

なお、単位当りの平均漁獲量を大島、野中⁷⁾の報告と比較すると、伊豆周辺ではその範囲が0.1~1.9kgで平均1.1kgであり、川尻はその範囲が4.9~7.6kgで平均6.4kgと伊豆よりも多く約3倍となつている。

III 摘 要

1. イセエビの産業的な分布は太平洋側では茨城県が北限であり、本県で漁獲された永年の漁獲量と塩屋崎の水温とを比較して次の結果を得た。好漁年は1~4年前位の海況に支配され塩屋崎の2, 3月の3ヶ年移動平均水温が8~9°C以上の年が続く又、近年は1ヶ年の平均水温が14~15°C以上で好漁年となつている。
2. 川尻の1959~'62の4ヶ年間のイセエビの漁獲量と出漁隻数をみると、'60が最も多く次に'61, '59, '62となり、'62はともに'60の約 $\frac{1}{2}$ となつている。
3. 単位当りの平均漁獲量は'61, '62が'59, '60と反対の傾向を示している。すなわち漁期初めの6月において'59, '60は'61, '62の2倍の漁獲量が見られ、7月にもほぼ2倍の増加であつたが、8月には'61, '62が'59, '60の逆傾向を示し、漁期中頃から終漁期にかけて資源の添加量が増加し

漁獲量が増大した。

4, 大島, 野中⁷⁾の報告した伊豆周辺における単位当りの平均漁獲量を比較すると本県は約3倍の増獲となつている。

IV 文 献

- 1) 久保伊津男：日水学誌, 8, (3) . 138~140, (1939)
- 2) 藤本武：茨城県水試, 試報 . (昭和34年度) . 87~97, (1961)
- 3) ——： " , " . (昭和35年度) . 128~138, (1962)
- 4) 農林省：農林統計 (茨城県農林統計を含む) (1901~1959)
- 5) 塩屋崎, 犬吠岬航路標識所：塩屋崎, 犬吠岬定地観測資料 (1914~1962)
- 6) 野中忠, 山崎浩：静岡県水試伊豆分場, 伊豆浅海開発資料第3号, 1~6, (1958)
- 7) 大島泰雄, 野中忠： " , 伊豆分場研究報告第3号, 1~9, (1958)